



高崎経済大学地域科学研究所
2017（平成29）年度第1回公開講演会

少子化時代の大学教育

2018年度より18歳人口の減少が進む。現在600校ある私立大学の4割はすでに定員割れとなっており、今後、多くの大学が閉校に追い込まれる事態となるだろう。また本格的な少子化の進行に対して、政権中枢でも国公立の設置者別の区分自体の見直しなど、大学の大胆なリストラクチャリングの議論も行われるようになってきている。

これから、どのような大学が生き残るのか。大学はそのためになすべきか。また受験生（高校生）は、大学をどう見極めればいいのか、大学に何を求めるべきか。戦後の大学の変遷や進学率の変化のデータなど、また直近の政府・文科省の動向などを紹介しながら、大学教育の今後を考えていきたい。

講 師： 小 川 洋 氏（教育研究者）

**日 時： 平成29年7月21日（金）
14時30分～16時**

場 所： 高崎経済大学6号館623教室

*** 入場無料・事前予約不要**

《講師プロフィール》 小川 洋（おがわ よう）

1948年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。埼玉県立高校で教鞭（社会科・地歴科）を執った後、2003年から2016年まで聖学院大学基礎総合教育部教員。1987年～94年国立教育研究所（現・国立教育政策研究所）研究協力者。

主な著書に『消えゆく「限界大学」』（2016）、『大学における学習支援への挑戦』（2012、共同編著）、『ロッキーの麓の学校から―第2次世界大戦中の日系カナダ人収容所の学校教育』（2011年、共訳）、『現代カナダを知るための57章』（2010、分担執筆）、『なぜ公立高校はダメになったのか』（2000年）など。

《お問合せ先》 高崎経済大学地域科学研究所

（事務局 研究グループ研究支援チーム）

電話：027-344-6267

E-mail：chiikikagaku@tcue.ac.jp